

第5回佐賀市社会教育委員の会議 会議結果（概要）

1 開催日時 平成28年2月19日（金）午前10時00分～12時00分

2 開催場所 青少年センター 2号研修室

3 出席した者の氏名

○社会教育委員

永野篤子、木原久美子、平川哲男、西岡豊、鶴丸雅加、櫃本真美代、上野景三、松尾薫、亀山清美（藤井委員、谷口委員、桑原委員は欠席）

○事務局

江副社会教育部長、中島社会教育副部長兼社会教育課長

【社会教育課】小林参事兼副課長兼社会教育係長、中村副課長兼青少年指導係長、馬郡子どもへのまなざし運動推進室長、深川庶務係長、栗山社会教育係主任

【協働推進課】鶴課長、中野公民館支援係長

4 傍聴者 無し

5 議題 （1）平成27年度社会教育課・協働推進課（公民館）事業について

（2）平成28年度社会教育助成事業補助金について

○議事概要

（1）平成27年度社会教育課・協働推進課（公民館）事業について

今年度の実施事業についての事業成果及び課題等の報告。

【主な意見】

- ・ 子どもふれあい体験キャンプや通学合宿など、大勢の人と活動する機会に恵まれない今の子ども達にとってとても重要である。また、通学合宿は地域の協力が必要であり、PTAが地域に溶け込むいいチャンスでもある。
- ・ 子どもの自然体験や生活体験が不足し、今では小学生より下の幼児にまで及んでいる。「子どもには体験が重要」ということを、親だけではなく大人が理解できるような生涯学習の講座、機会を増やしてほしいと思う。
- ・ 学校教育の立場から見ても、家庭教育の充実が一番の課題だと感じる。講師陣の選定など、家庭教育講座の働きかけを強めて、ぜひ開催数を増やしてほしい。
- ・ 家庭教育支援講座の重要性を学校等に説明していくと同時に、行政から学校現場におろされているいろんな事業を関係各課で一度整理する必要がある。
- ・ 佐賀市の成人式は新成人スタッフの進行がきちんとしていてとても良いと思うが、もっと「成人式にきて良かった」と思えるような企画を入れてもいいのではないかと感じる。
- ・ 成人式への参加率が85%というのはまなざし運動の成果と見ることもできるかもしれないが、一方で、参加していない15%がどういう層なのか、引きこもりのようなケースもあるとすれば、新青少年センターで何らかの手立てを考えていかなければならない。
- ・ 地域教育コーディネーターは学校と地域をつなぐ非常に重要な役割を果たしていると思う。ぜひ増員して配置してほしい。

- ・ 子ども相談事業について、相談の質も変わってきているので、より相談しやすい体制を考えていく必要がある。
- ・ まなざし運動の取り組みとして、若いOB（小学生からみた中学生、中学生からみた高校生など）がもっと関わりやすい環境づくりをすると、学校・在校生・卒業生の三位一体で元気になると思う。
- ・ さが学推進事業に近い形で、思斉館では地域に根ざしたカルタをベースに「思斉学」として取り組み、ふるさとの歴史上の人物や史跡などを学んで検定が受けられる。それを通して子どもはふるさとへの実感をもち、行事などに関わるようになってきているので、他の校区でもぜひ取り組まれてほしい。
- ・ まちづくり協議会と公民館の関わり方が校区によってばらつきがある。4月から職員体制も変わるため、公民館がどこまでやるのか、はっきり示してほしい。
- ・ 公民館等事業の評価制度について、公民館として何をどこまですべきなのか、地域と公民館共倒れにならないよう関係者評価（第三者評価）及びその観点をしっかり定めなくてはならない。

（2）平成28年度社会教育助成事業補助金について

28年度の補助金交付予定団体と交付予定額を説明。

特に意見なし

○報告事項

新青少年センターの運営について

設置根拠法や名称、相談体制等について説明。

【主な意見】

- ・ 大人の存在が青少年の利用促進のハードルになることもある。目的外利用の団体には、あくまで目的外であることを理解してもらい、本来のターゲットである若者の利用の阻害しないようにすべきである。